

サタデー コラム

ウクライナ蜂蜜に戦禍及ぶ

先月末にロシア軍がウクライナに侵攻し、戦争が始まりました。戦争の悲惨さが連日報道される中、弊社も蜂蜜の調達で大きな影響を受け、契約済みのウクライナ産蜂蜜の輸入に翻弄されています。得意先に供給を約束している品が入荷しないと大変です。ウクライナ国内の港が無理なら、貨車でポーランドを経由してEU(欧州連合)の港で船積みするなど、いろいろな手段を講じて名古屋港に持ち込み、県内の弊社工場まで運ばなくてはなりません。戦争は人道上に加え、経済面での影響も計り知れません。

わが国は蜂蜜の94%を輸入に依存し、そのうち70%が中国産です。最近はやいなフリーを望まれる顧客が多く、消費者を意識して大手食品企業は「中国

秋田屋本店会長 中村源次郎氏



なかむら・げんじろう 1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。岐阜南法人会長。県製菓協会会長。県製菓審議会委員。県収用委員会委員。みつばちの家理事長。県養蜂組合連合会長。岐阜市笑いと感動のまちづくり実行委員会会長。市信用保証協会理事。市公共ホール管理財団副理事長。県フェンシング協会会長。

産を避ける」傾向にあります。中国産は優良品もあるので、弊社は選別し品質保証するとともに、世界中から優れた蜂蜜を探し出し、調達に努めています。その一つがウクライナ産です。弊社の旧ソ連における開拓の歴史を振り返ると、約半世紀前にさかのぼります。

1970年代から80年代にかけて、ソ連産蜂蜜開発プロジェクトを開始し、小職は幾度も技術指導に赴きました。旧ソ連への渡航者はほとんどなく、不安な気持ちで生産地に入りました。まずはソ連崩壊後独立した中央アジア5カ国のうち、カザフスタンに拠点を構え、モスクワから来た白人のロシア人スタッフが

ツフと共に現地のアジア人と技術交流を図りました。皆、演説とアルコールが大好きで、朝食、夕食時はいつも社会主義イデオロギーを唱える演説と、ウォッカ、コニャックでの乾杯！乾杯！アルコール漬けの毎日となり、体重が一気に増えてしまいました。次にハバロフスクを中心とした極東シベリアで技術指導を行いました。豊富な蜜源植物の風景に感動の日々でした。

軍事上の機密も多い時代で、軍港のウラジオストクへは入れず、船で横浜港から津軽海峡を経て、ナホトカに入港し、シベリア鉄道で生産地に赴きました。現地の日本向け蜂蜜工場建

設プランを策定した直後、1991年のソ連崩壊となってしまいました。

それ以降、四半世紀の間、旧ソ連からの輸入は途絶えました。この数年で復活してきました。そのきっかけは、岐阜県とリトアニアの友好関係です。県と商工会議所連合会の使節団に参加し、リトアニア産蜂蜜の輸入を始めました。数量はわずかですが、旧ソ連の蜂蜜に再会でき、感無量でした。

ただ、リトアニアは国土が狭く生産量が限られているので、量を確保するためウクライナを志し現在に至っています。優良蜂蜜として、ウクライナ産の普及を始めた矢先に戦争が勃発してしまい、残念でなりません。

この現実を踏まえ、平和が戻ることを祈るとともに、改めて日本国内での蜂蜜自給率向上が使命と心得ます。